

自己評価報告書

平成23年 5月13日現在

機関番号：32809

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520599

研究課題名（和文）『日本霊異記』における地域関係説話の形成と伝承

研究課題名（英文）The Formation and Transmission of Folklore Based on Nihon Ryoiki

研究代表者

三舟 隆之（TAKAYUKI MIFUNE）

東京医療保健大学・医療保健学部・准教授

研究者番号：20418586

研究分野：日本古代史

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：古代史

1. 研究計画の概要

(1) 本研究は、『日本霊異記』の地方関係説話にどれくらい在地性が反映されているか、各地域説話の共通点などから考証し、在地で創作された原説話がどのように伝承されたかを考察する目的のものである。

(2) そこで複数の説話が残る地域を抽出して、登場する地名や氏族の分析を行った。

(3) 具体的には、備後・讃岐・九州・北陸・遠江・陸奥・美濃・尾張・大和・山城・伊賀などを舞台とする説話で、同類異話やジャンルやモチーフなどが共通する説話を比較した。

(4) さらにそれらの説話の残る地域の寺院跡などの古代的環境や、舞台となった地域の交通路などを現地調査し、原説話の伝承ルートの復元を試みた。

2. 研究の進捗状況

(1) 備後や讃岐の説話の背景では、国分寺を中心とする地方寺院間のネットワークの存在が背景にあり、特に山陽道や西海道などの主要幹線道上で説話が移動したことを確認できた。また九州でも説話の伝承ルートが大宰府を中心とする交通路上にあり、駅家を利用した可能性があるところから、伝承者が自度僧だけでなく官僧の可能性もあると思われる。

(2) 交通路については、九州だけでなく東北地方においても海上交通路を利用していた可能性を証明でき、また尾張・美濃では河川を利用した水上交通の存在も指摘できる。このような交通路の上を僧侶が活発に移動した結果、『日本霊異記』の地域関係説話が生み出されたものと思われる。

(3) 原説話の創作者は自度僧や地方僧が考えられるが、それを整備したのは、説話の残

る地域に国分寺が存在するところが多いところから、国分寺僧などの官僧の可能性が高いと思われる。

(3) また同類異話の伝承ルートについては、行基集団のような、地方僧を中心とした知識が存在していたと思われる。

(4) そのような地方仏教の拠点としては地方寺院の存在が考えられ、在地での仏教信仰を発展させる原動力となったとも思われる。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている

(理由)

現地調査はほぼ終了し、現在は資料の分析等に入って概ね順調に進んでいるが、研究成果の発表を雑誌論文などに投稿しているため、発表までに時間がかかっている。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 説話の伝承ルートが、駅路などの古代主要官道を利用していた可能性が明らかになり、そこに中央の官僧や地方僧が関係していたこともある程度実証できたので、さらに交通路の復元が必要と思われる。

(2) その説話が整備された場所が、各国の国分寺が多い点もある程度指摘できたので、国分寺と地方寺院のネットワークを今後考証していく必要がある。

(3) 古代地方寺院の造営では、軒瓦の瓦当文様で系譜を探るのが研究の中心であるが、それ以外に伽藍配置の問題も重要である。この点については意外に研究が少ないことが判明したので、今後の研究を推進して行くには、地方寺院の伽藍配置研究が必要だと感じた。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

三舟隆之 「『日本霊異記』地域関係説話の成立その背景―備後国を例として―」『日本歴史』758号 査読有り 2011年6月発刊予定

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 0 件)

[その他]